

森づくり通信

No.53

2019年 9月12日(木)発行 発行/金沢森づくりサポートバンク事務局
〒920-1301 金沢市永安町77番地 (金沢市林業振興協議会内)
TEL:076-229-1699 FAX:076-229-1172



石川県で今年の夏一番の話題と言え、星稜高校の甲子園での活躍ではないかと思ます。

私も同窓生としてスズメの涙の寄付をして期待していましたが、あと一歩という所まで行ったのに～。百年?に1度の大チャンスだと思ったのに～。などと外野的思いはありますが、甲子園出場の難しさや甲子園で勝つことの難しさなどを想像すると、どれだけの思いや練習を重ねて来たかに敬意を表し、来年も期待したいと思ます。

令和元年度 金沢森づくりイベント情報(一般参加可能分)

日程	イベント内容(予定)	場所	問合せ先
9月22日(日)	みんなとはじめる幸せの森づくり 山のお手入れ体験、カフェ、木工教室	金沢市住吉町	TSUKURU運営委員会 076-238-4023
10月12日(土)	きんしん東原の森づくり 森林整備活動	金沢市東原町	きんしん環境財団 076-231-7990
10月20日(日)	2019金沢農業まつり 農業イベント、森の食材アピール	JA金沢市本店	金沢市森林再生課 076-220-2217
11月2日(土) 3日(日)	角間里山まつり 里山イベント	金沢大学 角間の里	角間里山みらい 076-256-5338
11月23日(土)	木と火とヒト 木質バイオマス利用促進イベント	金沢市宮野町	角間里山みらい 076-256-5338

当協議会通常総会を開催しました



令和元年7月2日(火)10:00~11:30
金沢市林業振興協議会の通常総会を開催いたしました。

川上県央農林森林部長、山田金沢市農林水産局長にご出席頂き、委任状を含め15名の会員で平成30年度の事業報告と決算、令和元年度の事業計画及び収支予算について、山田事務局長が説明し承認されました。

情報交換として県と市の担当者よりパワーポイントを使いそれぞれの施策説明を行って頂き、里山や森林の現状に即した質疑応答がありました。

森づくり関連実施報告

森づくり専門員が森づくり活動や出前講座を行います。

金沢市森づくり専門員が子ども達や一般市民、企業等を対象に森林の役割や森づくりの進め方などについて助言し、森の中で間伐体験や植栽活動を通じての森づくり体験学習、学校では金沢の森を整備した際の木を利用し様々な木製品の工作指導など、森林環境教育を実施しています。

また、NPOなどの森づくりの際には森づくり専門員も可能な限り活動に参加し、道具の貸し出しも行っていきます。

<問い合わせ先>金沢森づくりサポートバンク事務局 または 金沢市森林再生課 TEL:076-220-2217

8月6・7日(火・水) 夏休みこどもウッドアート

金沢市俵芸術交流スタジオにおいて、金沢の森を整備する中で伐ったスギ間伐材を使いオルゴール箱を作りました。

今年も2日間で午前午後4回の開催にしましたが、定員100組に対し125組の応募があり抽選となりました。親子161名が協力し、どんぐりや木の枝などを使い素敵なオリジナルオルゴールを作りました。

オルゴールの曲は千と千尋の神隠しの主題歌とセカイノオワリのRPGを用意し選んでもらいました。



昨年からあまりの猛暑のため、エアコンが利く屋内で開催する事にし、主催者の金沢市森林再生課課長に開会の挨拶をして頂きました。



先週全国で熱中症病院搬送者が2500人を超え、地球温暖化が深刻な問題になっている事を説明し、温暖化防止のためにも木を使う事が大事との話をしました。



今回は事前の練習時間を設け、測る、切る、クギを打つ練習してから本番に入りました。木工が初めて(?)の子どもは、かなりの時間練習をしていました。



親子で相談し基本である設計図通りに測り、線を引き、ノコギリで切って、金づちでクギを打つを協力して行ってもらい、北陸学院大学の学生もサポートに入ってもらいました。



オルゴール箱に絵を描いたり、どんぐりなどの木の実や木の枝、貝殻などをグルーガンで取りつかけたり、シールなども使い素敵なオリジナルオルゴールが出来上がりました。



出来上がったオルゴール箱に希望のオルゴールを入れ、帰りの車の中でオルゴールが鳴りっぱなしの話も後で聞きました。記念として大事に長く使ってほしいと思います。

6月11日（火）不動寺小学校出前講座

3年生25名は今年の3月に植菌したシイタケのホダ木の本伏を予定していましたが、クマの出没で作業を中止し教室での森の授業のみになりました。

その分全体にゆっくりと授業を進められ、理解も深まったと思います。

恒例の水質浄化の実験も行い、森のすごい力を実感してもらい、HABの取材も入り放映もされました。



6月20日（木）内川小学校出前講座

内川小学校3年生8名は4月に植菌したシイタケとナメコの本伏作業を行いました。

ホダ木の菌のまわり具合を確認してから、運動場の横から竹を伐って本伏場所まで運び、仕掛けを作り本伏を行いました。

切った竹を使って器や花入れ、コップ作りが楽しかったようで、後の感想でも一番印象に残ったとの事でした。



7月31日（火）内川小学校出前講座

市内で唯一緑の少年団がある内川小学校で3年生以上28名が、運動場に隣接するわくわくの森の整備にウッドデッキを作りたいとの事で、木を使う事や道具の使い方も学んでもらいました。

学校林で間伐したスギの丸太をそのまま使い土台をつくるチームと、スギの座板に絵を描くチームに分かれて作業を行い、素晴らしいウッドデッキが完成しました。



6月12日（水）コマツの森づくり活動

コマツグループの大学卒新人24名を対象に、新人研修のカリキュラムの一環として、金沢工場近くの粟崎やすらぎの林で森づくり整備活動を行いました。

このフィールドはコマツ金沢工場が出来た事で、コマツが地域貢献を目的に、松くい虫の被害で枯れてきた海岸林を再生するために抵抗性クロマツの苗を植栽し、手入れを行っている森です。



7月10日（水）三谷・中村小交流学習会

中村町小学校と三谷小学校は総合的な学習で両校の環境の違いや良さに気付いたり、市瀬町のシイタケ工場や東原町の炭焼き小屋を見学し、以前の里山の生活や森の恵みを生かした工夫などを学びました。

シイタケ工場では収穫体験をさせてもらい、シイタケ3個をお土産に頂きました。

東原町では森の働きも学び、森の散策を行いました。



8月25日（日）森林公園木工講座

津幡町の県森林公園において親子木工の講師依頼があり、オリジナルのフリーミニラック作りに親子12組で26名の参加で行いました。

仕上げまでに3時間予定してあったので、木を使う事は地球温暖化防止に役立つなどの話を行い、初めてノコギリや金づちを使う参加者もいたので測って、切って、クギを打つ練習も行い、作品を作ってもらいました。



森づくりの話 ㊫

今回は列状間伐法について説明したいと思いますが、間伐の話をはじめた森づくりの話の㊫でも述べた通りで戦後の国土を回復するために植林した人工林は、一部を除いてほったらかしの状態ですごい事になっています。

こんな状態の森を緊急避難的に行う間伐が列状間伐だと私なりに理解していますが、どのようなやり方かと言うと、斜面の上下にそって列状に間伐するやり方で、一定の巾又は木が4列並んでいる中で3列残して1列を伐る1伐3残や、1伐4残などがあります。

この方法だとあまり難しい事を考えずに、高性能林業機械を投入して効率的で低コストで作業を終える事が出来、機械を使うので安全性が高まり残す木を傷つけないなどのメリットはありますが、優良木も不良木も一緒に伐ってしまうので不良木が残る可能性が高い事や、機械を導入するのである程度のまとまった面積の林分が必要で、機械が利用できない急斜面などの林分には不向きだといえます。

伐木等(チェーンソー)の業務(補講イ)のお知らせ

年	R元年	R元年	R元年	R2年	R2年	R2年
月日	10/30(水)	11/21(木)	12/18(水)	1/17(金)	2/20(木)	3/13(金)

※いずれの日も午前9:30~12:00、午後13:30~16:00ですが午前午後の受講指定はできません

※各講座の定員は100名で受講料は5400円です

労働安全衛生規則の一部が改正され、R2年7月末までに特別教育の補習講習を受けないと、同年8月よりチェーンソーを用いた伐木等業務につくことができなくなります

会場: 石川森林文化ホール(金沢市東蚊爪 1-23-1)

主催・問い合わせは林材業労災防止協会石川県支部(電話076-238-7198)までお願いします

※今回は補講の為講習補助はありません

編集後記

「木工作」

金沢のスギ間伐材をメインに使って木工作講座を毎年行っており、今年も8/6・7の2日間と8/25の森林公園で親子を対象に一般公募して行いました。小学校の出前講座や一般の出前講座でも木工作は行う事がありますが、いずれも自分で作って作品が完成すると出来栄は別にして笑顔で帰って行きます。

木は加工しやすく部材を測り線を引き、ノコギリで切ってクギを打って組み立てる。後はサンドペーパーなどで磨けば完成と、基本的な道具の使い方さえマスターすれば様々な作品が手軽にできる優れた材料です。

また地球温暖化の抑制策としてCO₂を吸収する森林を整備し、元気な森を作る事を国際会議で約束した日本は積極的に間伐や主伐を行い、木をいかに使って空気中のCO₂を固定するかに知恵を絞らなければなりません。

木工作の講座でもただ作品を作るだけでなく、最初に木を使う事の意義の話をしてしていますが、段々と道具を使える保護者が少なくなってきたな一と思うこの頃です。

金沢市森づくり専門員 加藤 八郎

